

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470501392
法人名	合資会社 三重福祉会
事業所名	安東苑
所在地 (電話番号)	津市安東町2004 (電話) 059-246-8246
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成19年4月14日(月)

【情報提供票より】 (H19年4月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 7人, 非常勤 8人, 常勤換算 7.9人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000~48,000 円	その他の経費(月額)	12,000~15,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(120,000円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 200 円
	または1日当たり 900円		

(4) 利用者の概要(4月27日現在)

利用者人数	16 名	男性 6 名	女性 10 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名
要介護3	4 名	要介護4	3 名
要介護5	名	要支援2	(申請中1名)
年齢	平均 78 歳	最低 62 歳	最高 90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岩崎病院・駒田歯科・伊勢谷医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園風景と山並みに季節を感じることが出来る郊外に位置し開設後4年目を迎えたグループホームである。元病院勤務の代表者と、看護師、福祉資格保有者が多く健康面でも安心である。職員は「人生の半分は自分のため、後の半分は社会のため」の理念を共有し入居者対応に熱心に取り組んでいる。家族にはホームのサービスに感謝の意を表すと共に諸費用を含めた利用料が良心的で安価なことも魅力の一つとなっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回調査の改善課題であった「玄関が分かり難い表札の設置」「いつも椅子に腰をかけているばかり・・・座ることの出来る空間作り」に付いてはいずれも工夫し改善されていた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	経営者はじめ職員は調査の意義、目的をよく理解し課題の検討改善に努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は未実行、早急に取り組む事が望まれる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情が無いとのことで安心は禁物。原点に戻り今一度、家族や地域との関係作りの見直しが望まれる。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	入居者が地域でその人らしく暮らすためにも運営推進会の設置と効果が期待される。

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人生(時間)の半分は自分の為に後の半分は人(社会)の為に」を理念として苑内の目に付きやすい所に体裁よく掲示してある。	○	制度改正に伴い地域密着型サービスの意義も含めた理念にされることが望まれる。
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念を毎日確認し実践している。職員のネームプレートは平仮名でつくられ、それぞれがホームの理念を基に、「私は○○○に心掛けます」などと自分の信条を書き加えている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域ゴミ置き場の清掃を実施。小学生の授業の一環としての訪問を受け、その感謝状も掲示してある。また保育園児の来苑など利用者とのふれあいの機会もつくった。	○	自治会に加入、回覧も回して貰うように依頼し会長より了解を得た。地域行事への参加、またホームのイベントの企画と催しに地域住民へ参加を呼びかけるなど地域との親交が期待される。
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者始め職員は評価の意義をよく理解し前向きな取り組みを行っている。前回の要改善事項についても全員で検討利用者、環境への影響を話し合っ改善に努めた。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1ユニット増設過程であった為、現在のところまだ実施していない。	○	自治会長、市役所介護保険課には協力依頼し了解を得たなど、6月実施に向け進めている。たとえ最初は少人数であっても早急に実現を望む。 いろんな面で効果が期待されると思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者は機会あるごとに市役所担当者と面談していて情報入手と報告を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	通常は家族の訪問時に本人の状況を報告し、急ぐ時には電話連絡をしている。日常のスナップ写真は苑内に掲示してあるが、ホーム便りは発行していない。手紙は暑中見舞い等挨拶程度。預かり金は出納帳に記録管理して家族の訪問時に確認を受けている。	○	家族アンケートの中にはホーム及び職員に感謝、満足的なものが多いが、ただ情報提供面では、より以上の提供を望む者のウエイトが高い。入居者の日常の暮らしぶりや状況の提供方法に工夫が求められる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項の説明時に本人家族に説明し、苑内にポスターも掲示している。ご意見箱の設置はあるが、これまでに投函はない。家族の訪問時に書いて貰った感謝文書の綴りがあった。	○	家族と出来るだけ意思の疎通をはかる機会をもち親交を深める事が望まれる。苦情が無いのが良いとばかりはいえない。運営推進会議等の効果も期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の異動による利用者への影響度合いを良く理解していて異動・離職を最小限に抑えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受けられる機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の内容によって職員に受講の要請をしている。また受講希望のある研修には参加できるように勤務体制を調整している。受講後は報告を行い他の職員と共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣同業者(グループホーム)と交流の機会を持ち積極的な情報交換が行われていてサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最初は家族と同伴で来て貰い全体的な説明をしながら本人には出来るだけ時間をかけ雰囲気に慣れてもらうことに努めている。後に職員の意見も聞きながら家族と共に徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は女性利用者から食事の味付けを教わることや、男性利用者から戸外のベンチに腰掛けながら野菜作りなど、時々物事を教わる態度で温かく接している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時や日常の暮らしの中で希望や意向の把握をするように努めている。	○	東京センター方式の良いところを取り入れながらホーム独自のものを検討している。本人と出来るだけ意思の疎通を図ると共に日々の表情や行動から出来るだけ細かく汲みとる事が望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用開始時本人、家族の意見を聞いている。また作成後は検討会で職員との話し合いも行い、家族の理解を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	原則3ヶ月毎に、また状況変化時にはその都度見直しをしている。日々の暮らしの中でも常に観察、注意を払っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
	17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	○	先月新館1ユニット増設し、引戸を境にデイサービスを開設した。今後は地域の利用者と情報交換をまじえた交流も考慮している。現利用者には墓参り、喫茶・外食、自宅訪問等も行っている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
	18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	○	現在契約内科医に月2回程度の定期的な往診を交渉中である。
	19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	○	将来はターミナルケアへの取組みも検討したいと考えている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
	20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない		
	21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○	編み物、折り紙、畑での野菜作り、草花の手入れなど職員は本人の意向に沿った支援をしている。なお一層利用者全員の趣味志向を把握して状況にあわせた個別性のある支援が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は利用者のリクエストの活用、出来るだけ旬のものも取り入れ、栄養バランスも考え、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日希望にあわせて入浴を楽しめるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌謡番組、編み物、畑作りなど趣味を活かしている。	<input type="radio"/>	一人ひとりの生活歴や本人の得意分野の引出しに努め、経験や知識を発揮できる場面作りが望まれる。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩、喫茶店へ行くことが中心である。	<input type="radio"/>	日常生活の中で一人ひとりの行ってみたい場所の把握と地域の催しへの参加、見学など出来る限り、地域とのふれあいを広める支援が求められる。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室入り口の引戸、窓には施錠の設備はない。夜間は玄関に鍵をかけているが、日中は開放している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害防止に全職員注意を払っている。つい先日消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を行った。非常食の確保及び倉庫の地下に雨水等大量の水も備蓄している。	<input type="radio"/>	今秋より消防署に依頼し年2回避難訓練の実施を計画済み。昼夜を問わず災害時の避難訓練も必要であり地域住民の協力を得られるような対策、関係作りも望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に管理栄養士によるバランスチェックを行っている。水分は利用者ごとにペットボトルにお茶を準備、食事時、おやつ時で1日の摂取量を把握している。個人の嫌いな物は把握しているが、特に好物、嗜好品は把握していない。	○	体調に応じて、粥、きざみ食にすることも有る。利用者一人ひとりの好みや食べたいものを把握すると共に、時には食事状況や内容等も家族へ情報を提供し意見や気付きを聞き取ることも望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内はバリアフリー化され、居間に畳を利用した移動式の縁台や、新設のトイレ、浴室など新しくても利用者にとって使い難いものは即改善に努めている。戸外にはベンチを置き、畑の作物・草花、遠くの山並みと田園風景に季節を感じ心地よく過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス、ベット、机、洋服、カーテンなど自分の使い慣れた物を持ち込み本人の好みの環境が作られている。(なお利用開始時に持参品を書類に残している)		